

PROFILE

コンゴ民主共和国で 女性のために闘争

コンゴ民主共和国は、豊かな鉱物資源をめぐる大国の利害関係によって火がついた紛争で引き裂かれている。ジョセー・シンビ・ウンバは、コンゴ民主共和国金属労組協議会（CSC）で女性問題を担当する第1書記次長で、極端な搾取・虐待という環境下で女性の権利を求めて闘っている。

文/アイシャ・バハドゥール

ジョセーは、看護師として働いていた1994年、困難な妊娠の際に出産休暇の延長を要求して解雇された。4年間家庭で過ごしたあと、組合に接触して不当解雇に異議を申し立て、復職を果たした。

「組合がなければ、自分のために闘ってくれる人は誰もいないことが分かった」とジョセーは言う。1999年に組合代表に選出されてから、この簡潔なメッセージを他の労働者に広め続けている。2003年、CSCで専従の女性問題担当者になった。「CSCが対象とするすべての部門の会社を回って、自分の体験を話し、女性に組合加入を勧めた」

CSCは組合員がいるすべての企業で、女性委員会の選挙を組織している。女性委員会の主な目的は、女性が職場で直面する問題を強調して闘うことである。

コンゴ民主共和国にはフォーマル・セクター雇用がほとんどなく、意外なことに、就労者数では女性が男性を上回っている。だが、これらの雇用は一般的に犠牲を伴い、男性上司がセックスと引き換えに女性を採用するのが慣習になっている。セックスは就職後も雇用保障や昇進に利用され、「これは『ソファ昇進』と呼ばれる」とジョセーは言う。職場のセクシャル・ハラスメントが横行しており、採用前にも採用後にも見られる。

ジョセーによると、インフォーマル・セクターの女性を取り巻く状況はもっとひどい。「健康保険も退職基金も家族手当もなく、インフォーマル経済の女性は社会的保護なしで多くの苦勞に直面している」

また、さまざまな腐敗した政府当局者から「納税」を求める嫌がらせを頻繁に受け、払わなければ所有物を押収される。

それに加えて、紛争地域では女性に対する暴力が極めて激しいため、組合は女性たちに、仕事に取りかかるときには女性用コンドームを身につけるよう勧めている。レイプは日々の現実であり、組織レベルでは防ぎきれないので、最善策は保護手段を確保しておくことだ。「強姦されたときに、少なくとも性感染症は免れるかもしれない」とジョセーは説明する。



国:コンゴ民主共和国

組合:コンゴ民主共和国金属労組協議会 (CSC)

組合員数 40 万人で、着実に成長している。輸送や鉱業、繊維、教育、建設など、多くの部門で労働者を組織化している。

これらの紛争地域は、小規模鉱業が行われている鉱山周辺にある。この地域の特徴は労働者が過密状態にあることで、人々は、最終的に多国籍企業や世界市場に送られる鉱物への需要から稼げる限りの収入を得ようと、わずかな機会を探し求めている。女性は鉱山労働者に食べ物などを売りに来る。女性から無理やり奪われることのあるものが、自発的に売られるときもある。「女性は生き残る手段として、あるいは販売できる商品の売上高を補う手段として、これらの地域で売春している」とジョセーは言う。

ジョセーは、CSC が過去 2 年間、紛争地域で女性に接触するプロジェクトを実施していることについて話す。しかし彼女は、政府側に基本的な問題に取り組む政治的意思がなければ、成果はほとんど上がらないと認める。

「困難でストレスが多く、フラストレーションを引き起こすこともあるが、自分が他の女性たちの力になっていることが分かるので、私にとっては情熱を注げる仕事だ」とジョセーは明言する。「ゆっくり目標に到達していて、女性が自分たちの権利を知り、組合加入者が増えており、私は自分が好ましい変化の一部であることを誇りに思っている」

だが、紛争によって生み出された状況の厳しさは、有意義な進展を妨げる大きな障害になっている。「こんな鉱物ではどうにもならない。多国籍企業は適切に投資し、雇用と安定性を生み出すかもしれない」とジョセーは合理的に説明する。

「必要なのは平和であり、平和がなければ何も達成できない。これはコンゴ民主共和国に関する私の夢だ。私たちも平和を手に入れることができるかもしれない」